書評

書著名: Chemical Sensitivity and Sick-Building Syndrome

著者·編者: Yukio Yanagisawa, Hiroshi Yoshino, Satoshi Ishikawa,

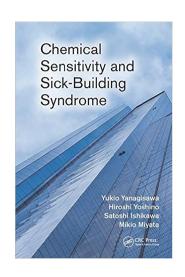
Mikio Miyata

出版社: CRC Press (2017/1/11)

ISBN-10: 146655634X

ISBN-13: 978-1466556348

発売日:2017/1/11



川崎医科大学衛生学 大槻剛巳

東海大学医学部基礎医学系分子生命科学領域 木村 穣

臨床環境医学の読者の方は、シックハウス症候 群や化学物質過敏症の主な原因として、様々な化 学物質が建築材料、設備備品、日用品、芳香剤、 防虫剤などに利用されるようになってきたこと、 建物の気密性能が向上し自然の状態では換気が十 分に行われなくなってきたことであることは十分 ご承知かも知れません。また、化学物質の人への 影響は、遺伝的要因、体質、食生活、それまで過 ごしてきた環境条件などによって大きく異なり、 同じ濃度でも全く問題ない人もいれば、それらの 疾患に罹る人もいるという事実も熟知されてい らっしゃるでしょう。そして、それらの疾患を治 癒するためには、化学物質を発生する原因を極力 排除し、換気を積極的に行うとともに、医学的な 処置を施し、抵抗力をつけるための食生活の改善 や適度な運動を行う必要があることも、言わずも がなかも知れません。

ここで取り上げる書籍「Chemical Sensitivity and Sick-Building Syndrome」は、日本臨床環境 医学会の設立時から学会とともに、シックハウス 症候群や化学物質過敏症の基礎研究・保険診療への適応も含めた臨床面に、医学および建築学の分

野から、その状態の解明と症例の救済に、惜しみない努力を注ぎ込まれてきた4名の編者の先生方が、2017年1月に上梓された両疾患に対する学際的な書籍です。

あとがきにも記されていますが、本書では【治療法や防止法を示すことが大きな目的であるが、それだけではなく疾患の来歴、患者の生活実態、疾患の診断法、治療法、建材等からの化学物質の発生量の評価・表示法、化学物質の濃度測定法、シックハウスにおける室内環境の現状、建築的な防止対策などについて、10年以上にわたる調査、研究に基づいてまとめたものであり、医学、薬学、化学、建築学などの専門家が総合的に取り組んだ研究の成果でもある。】という多角的で網羅的さらに鳥瞰的な多層な観点からの章が並んでおり、両疾患について学び始める人たちにも、さらにはすでに特定の領域で両疾患についての基礎や臨床も含めた修学を成してこられた人たちにも、非常に有益な内容となっています。

著者・編者の方々が重要視するのは【これらの 健康障害は、日本においてはシックハウス防止の ために建築基準法が2003年に施行され、ホルムア

ルデヒドを含む建材の使用の制限や換気設備の設 置などが義務付けられたために、患者の数は減少 したといわれているが、未だにこれらの疾患に苦 しむ人は存在する。また、厚生労働省がガイドラ インを示したホルムアルデヒドを含む13の化学物 質に関しては、近年の新築住宅における室内濃度 は低くなっているが、TVOC 濃度は400μg/m³を 超える例が多く、人によっては問題となることも ある。また、化学物質は3,000万種もあり、未だに 増え続けている。今後、健康障害の原因となる新 たな化学物質が出現する可能性もある。】という ことで、これらの疾患を取り巻く状況は、本邦の マスメディアでの取り上げ具合が、一時期より下 火になっている状況は否めない中で、これらの健 康障害に対して、研究者たちが一層の努力を惜し まずに費やしていかなければならないという理念 に基づいて述べています。

従って、本著で示された診断法、治療法、濃度 測定法、防止法などは、現在のシックハウス症候 群や化学物質過敏症に関連する様々な課題に対す る答を提供しているだけではなく、化学物質が原 因の未知の病気に対しての処方箋としても役立つ ものとなることを、我々読者は、深く心に刻みな がら、環境と臨床が結びつく学際的な領域の、大 きな羅針盤として、本書を携えて行きたいと考え ます。